

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 12 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3871200139
事業所名 (ユニット名)	グループホーム恵須栄 恵ユニット
記入者(管理者) 氏名	佐伯 恵子
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 28 日

<p>【事業所理念】</p> <p>地域の中で エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所</p> <p>私達は地域の中で一生懸命に生 きる姿を真心を込めて支え、地域 の中で笑顔の花を咲かせます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①理念に即した利用者様の現状に合わせたケアサービスの提供について、職員会・ユニット会(処遇会)・勉強・役職会・各種委員会活動を通じて職員全体で話し合いを行っている。それにより決まったケア方針を職員が共有・実践できるようにしている。</p> <p>②運営推進会議の議事内容を家族様に郵送し、ご報告している。次回の運営推進会議ご案内を同時にさせて頂き、参加を促している。また、お電話により、家族様に出席をお願いをしている。今年に限っては市の指導により文書での報告が多くなっている。</p> <p>③避難訓練は近隣の会社に勤めている方や福祉施設に勤めている方参加を予定していた。昨今の社会情勢により参加者は減ったが、地域の方が参加し、意見を頂いている。職員の緊急連絡網の実践訓練を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>静かな環境にある事業所周辺には緑が多い。ベテラン職員から若手職員まで、すべての職員は仲の良いチームができており、利用者の穏やかな生活を支援している。系列法人に様々な種類の関連施設があることで、利用者の状態が変化した際にも、スムーズに転居先につなげることができている。また、法人・事業所として災害対応にも取り組むことができ、地域住民や家族の協力を得て避難訓練が実施しているほか、食料などの備蓄品も整備されている。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日常生活の中での希望や、思いを聞いて、抜き出しケアプランに反映、実施している。	○	/	◎	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりと十分に対話する時間を取るよう心がけている。現在は、自分の意思を伝えられる利用者が多いが、難しい場合にはこれまでの利用者の様子や家族等から聞き取った意向を踏まえ、職員は利用者の気持ちを推測して支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日々の生活にて理解できるよう、本人様の表情や、態度など様子を確認し、意向を汲み取って検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	毎月の面会や、ケアプラン変更の際に、家族様の希望を聞き取り、話し合いを重ねている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々、ケアプランチェック表にて情報共有を行い、アセスメント表、日誌、ケース記録等にて詳細を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	処遇会等で、ユニットの全職員が利用者様の状態の把握及び、情報共有を行い、利用者様の思いを汲み取るようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	利用者様とのコミュニケーションの過程で、情報の抽出を行い、家族様とは、入所時、来所時等の機会に話を聞いている。	/	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、担当していた介護支援専門員等から情報をしっかりと聞き取りをしている。入居後にも、日々の支援の中で、職員は利用者からこれまでの暮らしについて話を聞いたり、面会に来た家族や友人から情報が得られたりすることもあり、アセスメントシートに記録して把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の介助、対応時のコミュニケーションや、レクリエーションの提供等を通じ、有する能力や心身の状態を把握し、処遇会等で検討を行っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の介助等の対応で観察を行い情報収集、共有し、各担当者の作成する掘り下げたアセスメント表や、24時間シートにより把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安定の要因について、様子観察、声掛け傾聴により、把握に努めている。また、服薬やバイタル等、体調による影響も看護師や、かかりつけ医に相談している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	各担当者が、日々の過ごし方を24時間シートにまとめ、変化や、違いについて把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者様の思いや、願望について処遇会で職員同士が意見交換を行い、検討している。	/	/	◎	職員一人ひとりが把握した情報は、朝夕の申し送りや月1回の処遇会において、職員間で共有されている。各利用者の担当職員が中心となって情報を把握し、ユニットリーダーがまとめる形で記録を整理している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ご本人様や、家族様に希望を伺い、処遇会やアセスメント、モニタリングにより検討し、常にサービス提供に反映している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	処遇会、アセスメント、モニタリング等により、介護課題の検討は常に行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人様の意向を重視し、施設での生活として、出来得る限り、意向に沿った内容になるよう努めている。	/	/	/	各利用者の担当職員が主に把握している利用者の情報をもとにして、計画作成担当者が介護計画を作成している。職員は家族にも細目に連絡を取り、意見や要望を聞くようにして、反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	来所した折、家族様の話や聞き、利用者様の意向を元に職員同士で、ケアの方向性について話し合い計画を作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	出来る限り、利用者様の意向に沿った生活が送れるように検討している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	必要に応じて、家族様に不穏時の電話対応であったり、面会をお願いしている。医療の協力も得られる体制をとっている。地域の方々の協力については、不十分である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	モニタリングや処遇会をとおして、ケアプランや内容の把握、情報の共有に努めている。	/	/	◎	毎日のケース記録の様式が、介護計画の目標に沿って記載できるようになっており、職員が計画の内容を意識できるよう工夫されている。また、毎日のケアプランチェック表や介護日誌には、丁寧に支援した具体的な内容が記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々モニタリングを行い、状況の確認、記録をして支援につなげている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々、担当を決め暮らしの様子や支援についてケース記録に記載している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	その都度、日誌やケース記録に記載している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的にプランの見直しを行っている。	/	/	◎	利用者の状態が変化した際には、その都度見直しを行うほか、大きな変化がない場合でも月1回の処遇会の中でモニタリングを行い、サービスの実施状況や利用者の現状確認をしている。また、介護計画は6か月を目安に、見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、処遇会を行い、現状の確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	体調の変化、身体状況の変化、退院後等に見直しを行い、必要に応じて、新たな計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	職員会議や処遇会を定期的に行っている。緊急案件があるときは申し送り等で、情報共有している。	/	/	◎	月1回の処遇会はユニット毎に開催し、主に利用者の詳細な情報共有や検討の場となっている。職員会議は両ユニット合同で開催しており、会社からの伝達事項や入退所など大きな変化があった利用者についての申し送りが行われている。また、議事録がまとめられ、参加できなかった職員にも内容が伝達されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	自由に発言する場を設け、情報の共有とともにチームの活性化に努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	夜勤者以外全員参加する職員会議がある。その他会議も、可能な限り、多く参加できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成したり、参加した職員からの申し送りで、必要な情報を共有している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送り帳、日誌、ケース記録や口頭による申し送りで、必要な情報を共有している。	/	/	◎	申し送りノートや日誌には、利用者の変化や外出の予定などが丁寧に記載され、職員間で情報共有できている。重要な事項にはアンダーラインを引いたり、朱枠で囲んだりするなど、分かりやすい工夫もされている。また、記録の閲覧後には、職員が押印する仕組みとなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り帳と、ケース記録、日誌、議事録等を通じて重要な情報はすべての職員に伝えている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	声掛け、傾聴により、利用者様の意向を把握し、出来る限り、対応し、本人様の意思や、やりたいことを尊重するように心がけている。	/	/	/	職員は利用者一人ひとりに丁寧に声をかけ、思いや意向を聞き、選択する機会を設けている。アセスメントで、職員は利用者の好みを把握しているため、興味のあることを中心に声かけをして誘うことができおり、利用者楽しんでもらう機会を提供している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	利用者様が、自己決定できるように、身だしなみなど身近なことで問いかけを行い、選択できる機会を持てるように努めている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	分かりやすい言葉を使い、衣類を選ぶなど日常的なことで意思決定できる機会を多く提供し、利用者様が納得できるように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人一人のペースや習慣を大切に起床、就寝、食事、排泄、入浴等の時間やタイミングをずらすなど適宜対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様の特徴を把握し、その方に合った話題や、レクリエーションの提供に努め、笑顔を引き出せるように努めている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が難しく、本人様の思いや意思がわからない時でも、表情や反応を注意深く観察しながら、本人様の思いを暮らしに反映できるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会や研修にて人権や尊厳、利用者様の誇りやプライバシーについて学び、ケアに活かす事が出来ている。	/	◎	◎	日頃から職員の言葉がけには、ユニットリーダーが留意しており、職員に向けた貼り紙をして注意喚起を促している。居室への出入りやトイレ、入浴時など、利用者のプライバシーに配慮した支援ができるよう、特に新人職員には力を入れて指導している。また、訪問調査日には、難聴の利用者に耳元で職員が声をかけてトイレへ誘導するなど、できる限り配慮している様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者様に敬意を払い、トイレ誘導など羞恥心に配慮した上で、さりげない声掛けを行うようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時や、入浴時には、ドアやカーテンが設置されており、必要以上の露出を避け、不安や羞恥心、プライバシーに配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入室する時は、ノックや声掛けを行い、許可を得てから、入室するように心がけている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会等により、利用者様のプライバシーの保護や、個人情報漏えい防止等について理解し、むやみに個人情報を話したり、書類を持ち出さない等、気をつけている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様に洗濯物をたたんだり、拭き掃除の手伝いなどをしてもらったときには、感謝の言葉を伝えるなど、敬う気持ちで接する事を心がけている。	/	/	/	職員は、利用者同士の相性や関係性について把握している。雰囲気や険悪になった場合など、職員が利用者の間に入って場所や話題を変えるなど、大きなトラブルにならないように対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様同士が仲良くできるように、お話をする機会を多く提供したり、もめごとがあるときには、仲裁に入る等、良好な関係作りを努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	中立の立場で間に入り、トラブルの解消や、席替えを行う等、友好的な雰囲気を作るよう努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうな気配を感じたときには、早めに対応して未然に防ぐよう努めている。防げなかったときには、職員が間に入り、話し合ったり、一時的に席替えを行う等、工夫している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族様等の聞き取りや、本人様とのコミュニケーションの過程で、これまでの生活歴や本人を取り巻く人間関係について情報収集している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族様等の聞き取りや、本人様とのコミュニケーションの過程で、これまでの培ってきた地域との関係や、馴染みの場所などについて把握するように努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの人や、馴染みの場所との関係が切れないように支援していたが、現在はコロナ禍の為、外出や面会は控えていただいている。電話での会話等は、積極的に行っている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	友人や知人の訪問を気軽に受け入れていたが、現在はコロナ禍のため、受診以外の面会を中止させていただいている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候や、気候に配慮しながら、散歩など行っている。また、ホームの前で野菜を育てたり、ベンチに座って風に当たると等、戸外に出る機会を設けている。	○	×	○	利用者の状態に関わらず、毎日各ユニット一人ずつ順番に散歩に出かけている。午後のお天気の良いタイミングを見計らい、利用者と職員が1対1で出かけるため、じっくりと対話できる良い機会となっている。その他の外出として、ドライブで藤の花を見に行ったり、景色を眺めを楽しんだりすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍のため、不要不急の外出は、控えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気や気温に気をつけつつ、散歩や、ホーム前のベンチに座って過ごす等、実施している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	今年は、コロナ禍のため、外出を控えている。コロナが流行る前には、ドライブなどに出かけていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会等で、行動・心理症状について学び、介護に必要な知識を得ている。				「24時間シート」を活用して、利用者一人ひとりのできることやできそうなことについて細かく整理され、職員間で共有できている。訪問調査日には、時間がかかっても利用者自身が車いすを自走したり、歩行器を使用して自分で自由に移動したりする様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者様の残存能力を把握し、日常生活をリハビリの機会として活用し、自分でできることをご自分で行ってもらうことで、身体機能の低下を防ぐように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	移乗や更衣等、出来る事、出来そうな事は、声掛けにて自身で行っていただいている。見守りを行い、出来ないことは介助にて対応している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者様の日頃のレクリエーションや言動、様子から、出来る事や好きなことを把握し、利用者様の能力に応じ支援を行っている。				職員は、利用者それぞれ得意な作業をお願いしており、洗濯物たたみや季節の飾りつけの折り紙などをしている。全ての利用者が役割を持てるよう、職員は、新聞紙のごみ入れ作りや張り紙の作成など、利用者のできそうな作業を見つけることを意識している。事業所の近くには畑があり、利用者と一緒に季節の野菜を育て、収穫を楽しんでいる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者様に合わせたレクを行ったり、作品等を展示する場を設けたりしている。また、作品を地域の公民館イベントに出品するなどしている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	今年は、コロナ禍で出来ていないが、毎年、地域のイベントに参加したり祭りや子供御輿、獅子舞等をみていただいている。また、作品を地域の公民館イベントに出品するなどしている。				

愛媛県グループホーム 恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	整容について、個性を把握している。男性の利用者様は、鏡を見て髭を剃り、女性の利用者様は、櫛を持って髪を梳いており、自分らしくされる支援を行っている。				利用者の状態に関わらず、2か月に1回の訪問理美容サービスを活用して、髪型などの整容を整えている。トイレから出てきた際に衣類が乱れていることが多く見られ、職員がさりげなく声をかけながらそっと手直しをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	選択する事ができる利用者様には、本人の意向を尊重し支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けや、傾聴を行い、共感することで、利用者様の意見を尊重し対応、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	コロナ禍の影響で、外出は控えているが、生活の中で、その人に合った服装ができるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者様のプライドを傷つけないように支援するなど、細やかな気配りを行えるように心がけている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	コロナ禍でもあり、2ヶ月に一度、散髪をしていただくために、理容師に来院してもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	分かる範囲で、利用者様の希望に沿うように対応している。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	勉強会等にてプロセスの意味や、大切さを理解しており、本人様が食べやすい形状、栄養状態、好みなどを把握し、利用者さまに楽しんで食事をしてもらえるよう努めている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△		お味噌の分量を分けたり、食器を拭いていただく等、利用者様が出来る事に携わっていただいている。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△		後片付けの一部以外、毎日行っていない。おやつ作り等、イベント時に盛り付けや、一部調理に携わっていただいている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎		入居時の情報収集や、アセスメントを通じ、把握している。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎		給食委員会にて情報を収集し、献立にいかしている。また、季節のイベントにてアイスクリームや、芋炊きなどを作り、季節感を感じていただいている。			○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○		利用者様の体調や状態を確認しながら、できるだけ食欲をそそる盛り付けに取り組んでいる。					
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎		個人個人にあった使いやすいものを使用していただいている。			○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○		一緒に食事はしていないが、見守りを重視し、食事の様子を観察することで、一人一人の状況を把握している。また、気持ちよく楽しく召し上がっていただけるよう、声掛け等で、さりげなく支援している。			△		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎		オープンキッチンで、調理時の音やにおいを感じていただいている。また、口腔体操を行い、美味しく味わえるように配慮している。		◎	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎		状態や、バランスよく摂取されているか記録し、栄養スクリーニングにて確認している。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎		食事形態の工夫や、時間をおいての声掛けを行っている。また、お茶ゼリーや、ポカリ、ミロ等の甘い飲み物、コーヒー等の利用者様の好みに合わせた飲み物を用意するなど工夫をしている。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎		給食委員会を通じ、話し合いの場を設けている。また、管理栄養士にもアドバイスをもらっている。			○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎		調理用具やキッチン周りには、その都度消毒を行い、食材も適切に保管している。また、食中毒について勉強会で学んでいる。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	外部研修に参加した職員が、内部の勉強会で学んだ知識を発表する等、知識の共有に努め、職員全員が、十分に理解している。	/	/	/	毎食後に、利用者は歯磨きをしている。義歯を外す際には職員が付き添うため、その時に口腔内の状態を確認している。違和感や痛みの訴え、出血、腫れなどが見られた場合には、歯科受診につなげている。また、職員は定期的に口腔ケアの研修を受講し、日々の支援に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔内をチェックしており、把握出来ている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	外部研修会により、指導を受けた内容を職員が共有し、日々の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日、食後に口腔ケアを行い、夜間は専用の洗浄剤で洗浄し手入れを行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後に口腔ケアを行い、見守りや声掛け、介助を必要に応じて毎日行っており、清潔の保持に努めている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異変がある場合は、ご家族様に連絡し相談している。必要に応じて受診等、対応していただいている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修会、勉強会や介護の中で、心理的身体的影響について実感し、十分理解している。	/	/	/	トイレでの排泄を基本としているが、入居前にポータブルトイレを使用していた利用者もあり、利用者や家族の希望があれば、夜間のみ継続して使用してもらうこともある。布パンツの利用者も数名おり、パッドを使用し始めるタイミングや声かけの仕方、紙パンツへの移行など、一人ひとりの状態に合わせて、家族にも相談しながら支援している。また、排泄用品の適切な使用や状態に応じた誘導など、日々の申し送りや処遇会で検討して共有している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修会、勉強会で学習し、理解を深めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄の記録を正確にとることで、排泄の習慣、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄の記録や介助を通じて、職員で話し合い、利用者様の状況の見直しを常に行うことで適切な支援ができるよう努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員皆で話し合いを持ち、水分量、食事量を考慮しながら、改善に向けた対応策を考え実行している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄記録を確認した上で、適切なタイミングで声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	日中、夜間等、排泄パターンを考慮し、パッドの種類を選択したり、ご家族様や利用者様と相談しながら、適切なものを使用するよう心がけている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者様の尿量、回数など状態を把握し、日中夜間の時間帯に合わせて、一人一人に適切なものを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分補給に努めたり、日常生活で歩行を促したり、運動レクリエーションの参加を促す等、便秘対策に取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回の入浴予定を立てているが、利用者様の希望を尊重し、予定の変更や、時間の変更には柔軟に対応するよう努めている。	◎	/	○	週2回を目安に、利用者は順番に入浴している。午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調により、入浴日や時間を変えることもある。入浴を億劫がる利用者もいるが、対応する職員を代えたり、声かけのタイミングを変えたりする工夫をしながら、利用者にも無理強いをしないよう配慮した入浴ができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	入浴でリラックスしていただけるように支援助動を行い、一人一人に応じた声掛けや、好きな話題の話をするなどして、リラックスしていただけるよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	利用者様の状態を常に確認し、できることは利用者様にさせていただき、出来ないことを介助することで、安全な入浴を支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いにせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	職員間で、入浴拒否の原因や理由を話し合い、対策を検討している。入浴成功例の記録を通して対策を工夫しながら、利用者様に気持ちよく入浴していただけるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル測定で、状態を確認した上、入浴の可否や入浴方法を決めている。入浴後も、水分補給とともに様子観察を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	利用者の睡眠パターンは、夜勤者の申し送りや記録を通して、24時間シートにまとめ、職員全体で情報を共有し把握している。	/	/	/	できるだけ薬に頼らなくても済むよう、職員は利用者の日中の過ごし方などを気を付け、安眠できるよう努めている。現在、眠剤等処方されている利用者が数名いる。職員は利用者の翌朝の状態などを細かく観察して主治医に報告しており、処方薬の減薬や服薬の必要がなくなった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中、体操・運動レクリエーションに参加し、体を動かしていただいたり、利用者の興味を引くことに取り組んでいたことや、外気、日光に当たる等、職員間で話し合い、生活リズムを整える工夫を行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の状態を把握し、十分に検討した上で医師の指示を仰ぎ、総合的支援を行っている。睡眠導入剤や安定剤の使用で、利用者様に変化が見られたときは、看護師や医師に相談し、迅速な対応を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者様から休息の希望がある時、また休息が必要な時は、ホールのソファや居室に誘導を行い、休んでいただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者の要望があるときは、家族への電話連絡を行えるように配慮し支援している。また、手紙を書く要望のあるときや、季節の挨拶(お正月や暑中見舞い)等、利用者様に適した支援を行っている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	利用者の希望に添えるように、必要場合は職員が手助けを行い支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族様と気兼ねなくお話できるように、時間帯や場所を配慮している。また、あらかじめご家族様に電話することを伝え、協力していただけるようお願いしたりしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがきは必ず利用者様にお渡し、返信や連絡は、利用者様に伺い、希望に添えるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	予め、ご家族様に利用者様から電話をすることを伝え理解していただき、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	△	ご利用者様がお金を使うこと、管理する事の重要性を理解しているが、ご利用者様が金銭管理出来ない場合が多い。施設ではお金を所持する必要性がないことを説明し、納得していただいている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナ禍でもあり、利用者様の必要な物、希望の品は、ご家族様に協力をお願いして買ってきていただいている。平時は、家族様の協力のもと外出し、買い物を楽しんでいただいていた。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナ禍で、外部との接触を避けるため、買い物等、外出は極力控えている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金に関しては、ご家族様と話し合い、了承を得るようにしている。紛失等トラブルが発生した場合は、ご家族様に報告、説明した上で理解をしていただいている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	利用者様、ご家族様と話し合い、理解していただいている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規定を整備して、管理方法を整え、家族様に同意を得ている。金銭管理が難しい利用者様には、弊社の規定に基づき管理させていただき、家族様に報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ご家族様の状況や希望、利用者様の意向を伺い、ニーズの把握をして適切な介護サービスが提供できるように近隣施設や、地域の方々や団体と協力体制を築き、柔軟な支援が出来利用取り組んでいる。	◎	/	◎	「自宅でガーデニングを楽しんでいた」ということを家族から聞き、事業所ではプランターを準備して、職員と一緒に花を植えて毎日の水やりを日課としている利用者もいる。可能な範囲で、管理者は「利用者や家族の希望に柔軟に対応したい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関前の庭やプランターで野菜や花を栽培したり、腰を下ろして休んだり、お話できるベンチを設置して気軽に立ち寄りやすい環境作りの工夫を施している。	○	○	○	玄関前にベンチが置かれているため、そこで利用者と一緒に花を眺めて過ごすこともある。玄関は出入りを自由にすることができる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	玄関やホールに季節の花を生け、日本の伝統行事にちなんだ小物や利用者様の作品を飾って心地よい空間作りの工夫をしている。いつでもくつろいでいただけるようにソファやベンチを置いて家族的な雰囲気作りに努めている。	○	○	○	リビングに季節の果物を置いたり、利用者と一緒に作成した切り絵や折り紙などを飾り、利用者や来訪者に季節を感じられるよう配慮している。毎日、職員が丁寧に掃除しているほか、新型コロナウイルス等の感染症対策のため、1日に2回消毒作業も行い、清潔が保たれている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	日々丁寧な掃除に努め、感染症対策に対する消毒を行い、清潔保持を徹底している。定期的な換気や、カーテンでの光の調節等、快適な環境づくりに努めている。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節を感じていただくために、花を生けたり、庭で収穫した旬の野菜に触れていただくことや、季節の行事を企画して利用者様の感性に働きかける取り組みをしている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ホールには、二つのテーブル、ソファ、ベンチを配置して、気の合う利用者様を思い思いに過ごせるように配慮している。居室にはトイレ、シャワーが設置されていて、1人の空間を大切にしている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレは居室にあり、浴室の脱衣場にはドアを開けた際に直接見えないように暖簾があり、利用者様のプライバシーを守っている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご利用者様、家族様と相談し使い慣れた座布団や、日用品を居室に置き、安心して生活できるように配慮している。	◎	/	/	○	自宅で使用していたベッドを持参している利用者も数名いる。居室には、いすや収納棚など、使い慣れた家具を配置したり、家族の写真を飾ったりすることにより、居心地の良い空間づくりを心がけている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	利用者様が、一目でわかるように入口に名前や、トイレの場所、電気スイッチ等を掲示している。	/	/	/	◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	不安や、混乱を抱いた物品には、迅速に対応している。危険物は見守りのもと使用していただいている。	/	/	/	○	トイレや浴室の入口に大きく表示をしているほか、居室の引き出しには、くつしたやタオルなどの表記があり、利用者が自分で取り出し選択できるよう配慮されている。居室の入口には名前のプレートを貼ったり、目印となるものを飾ったりするなど、利用者に合わせて分かりやすく、迷わないような工夫もしている。
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	使い慣れた時計、家族様の写真等、いつでも利用者様の手に取れる様に配置している。しかし、すべての利用者様が、裁縫道具等、職員に言ってもらえれば、お渡しできるが、いつでも手に取れる状態にあるとはいえないものもある。	/	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員会議での勉強会や身体拘束適正化委員会により、身体拘束や虐待の内容を把握し、防犯以外の施錠は行わないよう努めている。	◎	○	◎	日中玄関は施錠しておらず、利用者は自由に出入りすることができる。外へ出ようとしている利用者がある場合には、職員が付き添って玄関のベンチでおしゃべりをして過ごしてもらっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族様には、入居時に説明し、施錠を望まれる家族様には、誰でも閲覧可能な身体拘束適正化に関する指針に沿って説明させていただいている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は施錠せず、オープンにしている。帰宅願望で、外に出ようとされた時は、職員が付き添いベンチと一緒に座ったり散歩をしていただくなど、気分転換していただくように対応している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に、面接記録や健康診断書で、既往症、現病歴を把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定を行い、身体の様子観察を行い、異常値があれば、1日数回、再測定して確認している。数値をデータ化してグラフ等でも確認できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常があれば看護師や医師に相談し、必要であれば早期に受診していただくよう努めることで、重度化の防止につなげている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	一人一人の受診内容を理解し、家族様と相談の上、希望された病院に受診していただいている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	利用者様、ご家族様の意向を伺い、かかりつけ医に受診または投薬、往診をしていただいている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は、ご家族様に対応したり、介護タクシーを利用して受診していただいている。新型コロナウイルスの罹患を考え、必要であれば、家族様のみで、投薬対応しているケースもある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は、サマリーを作成しADL、内服薬等の情報を提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の状態を家族様やケースワーカーを通して確認し、情報を得ている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	新型コロナウイルスの罹患を考慮し、スムーズには行っていない場合があった。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者様の変化や、異常をすぐに口頭や、申し送り帳でスタッフに伝え、共有するとともに、異常時には、医師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコールマニュアルに規定された仕組みによって対応できる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	身体的、精神的な状態を常に把握できるよう、清拭時の確認や、バイタル測定等により把握し、早めの対応を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	利用者様の病名に応じて服用している薬の薬事情報により理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	一包化し、服用しやすくしている。また、朝昼夕とわかりやすく、目印になるラインを引き、配薬、服薬時にダブルチェックを行い、誤薬しないように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	心身の安定を図れるように調整している。向精神薬等、ふらつきなどの副作用を理解し、必要であれば主治医に相談、対応をお願いしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	副作用理解し、異常があれば、家族様や、主治医に情報提供をし、適切な対応ができるよう努めている。				

愛媛県グループホーム恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	本人様の状態を把握、状態変化の段階ごとに、職員間で情報を共有し、家族様や、主治医とも相談し、今後の対応等、方針を決めている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り及び重度化した場合における対応にかかる指針」を作成しているが、これまでに事業所での看取りは行っていない。入居時に、利用者や家族には事業所として可能な支援の限界を丁寧に説明し、実際に重度化が進行した際にも家族等と話し合いの機会を持つようにしている。系列法人に特別養護老人ホーム等があり、そういった施設での受け入れ体制の支援についても説明し、慎重な引継ぎを行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	看取り及び重度化した場合における対応に係る指針に基づき、重度化した場合は、医療機関、家族様、職員で話し合い適切な対応、方針を共有している。	x	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取り及び重度化した場合における対応に係る指針に基づき、対応内容や、段階的な取り決めを行い、どこまで施設対応ができるのかを検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に、看取り及び重度化した場合における対応に係る指針に基づき、対応内容方針について理解をいただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、速やかな医療機関との連携を図るとともに、グループホームでの共同生活が妥当でない場合に備えて周辺の施設と協力体制を構築し、住みかえなども視野に入れ適切な対応できる体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様の状況や、心情を考慮し、適宜、相談支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を定期的に行い学んでいる。実際の対応については感染症対策マニュアルに沿って実行する。新型コロナウイルスについては、職員会の場で話し合い学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策マニュアルに沿って、予防や対応を行っている。速やかに対応できるよう、備品の準備を行い活用している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	行政からの通知や感染症の時期になるとインターネットを通じて、情報収集を行い、最新情報を入手し、職員会等で情報の共有を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報の収集に努め、不要、不急な面会を控えていただいたり、適切な感染症の予防に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	感染症防止の為、手洗いうがいなどの予防を徹底し、来訪者についても、検温や感染リスクの有無等の情報確認を行うと共に清潔の保持を支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	コロナ禍で、面会は中止させていただいているが、受診等、必要なことは、協力していただける関係を築いている。	/	/	/	夏祭りや羊炊きなど、行事の際には家族にも参加してもらっている。年6回発行している便利には、利用者の写真も多く掲載されているほか、職員の異動などがあれば紹介をしている。面会時には、職員が丁寧に日頃の様子を伝えているほか、何か要望があれば聞き取るようにしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、面会制限が設けられていることもあり、郵便や電話での交流が中心となっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様が訪れた際には、居室にて自由にお話ができる環境を整えている。現在は、コロナ禍であるため、不要不急の来訪はお断りしているが、電話連絡等、関係を保つ努力は行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族様が参加していただけるような、羊炊きやボランティアによる演奏会、歌謡ショーといった行事を企画し行っていたが、コロナ禍のため、現在は参加されていない。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	定期的に、利用者様の暮らしぶりなど日常的に手紙にてお知らせしている。また、行事内容の広報誌を発行し配布、ホームページへの掲示等を行っている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や電話等でコミュニケーションを図り、家族様から知りたいことや疑問に思うこと、不安なことなどの質問を受け、それに対して具体的な回答を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族様と本人様のこれまでの関係を把握し、ご本人様の理解に努め家族様との関係が良いものとなるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等で、ご協力を必要とする場合は、都度連絡し、了解をいただいている。その他必要なことも電話などの際に、お伝えしている。	/	x	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事の際、ご家族様同士で、お話をする場を提供し、関係作りができるよう働きかけを行っていたが、コロナ禍でもあり、現在はほとんど対応出来ていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	転倒や体調において起こり得る事を、必要に応じて家族様に説明し、そのなかでも、行動制限することなく、毎日の暮らしが安心して楽しいものになるよう支援している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	病院受診時や電話連絡の際に、気軽に話して頂けるよう、礼儀や接遇に気を付けたくうえで、積極的に情報を伝え、関係作りに努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的に現状に沿った説明を行い、疑問等あれば質問していただき理解して納得を得るようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約締結の際に、予め退去について決定過程を十分説明し、実際に退去する際にも、今後のことについて家族等と話し合い、安心して退去先に移行できるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時は、重要事項説明書で説明し、料金改定時は口頭で説明し、同意書を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の人達に参加して頂き説明を行い納得していただいたうえで設立し出来上がった時には見学や遊びに来ていただいている。	/	◎	/	毎日、利用者は職員と順番で散歩に出かけているため、近隣住民に出会った時には挨拶をしたり、少しおしゃべりをしたりすることもある。芋炊きなどの行事の際には、地域住民にも参加してもらっている。現在はコロナ禍のため、地域との交流する機会は減っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	近所で会う人には挨拶を心掛けている。盆踊り大会、芋炊き、お祭りなど、地域の人達と交流もしていた。しかし現在はコロナ禍では十分に行えていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	行事に参加して下さる家族様や地域の方と行事に参加して、顔なじみの関係を構築するよう努めていたが、コロナ禍では、十分に行えていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍であり、不要不急の来訪はお断りしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩等で外に出たときに地域の人と会えば挨拶等、声掛けをしを行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	定期的にボランティアの人をお呼びし、歌を歌っていただいたり、楽器を演奏したりしていただいていたが、コロナ禍ではボランティアの参加は、中止させていただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	市の相談役が定期的に来てくださり、支援して頂いていたがコロナ禍で中止になっている。職員との繋がりの中で本人様の力を発揮しながら、生活できるように支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の福祉施設の協力を得たり、2か月に一度ずつ理美容室の方に来てカットをして頂いたりして、地域の方と関係を持てる様になっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	運営推進委員会には利用者様、家族様、民生員会様、市の相談員様、地域医療連携室関係様、包括支援センター様、地域の皆様等に参加して頂いていたが、コロナ禍の為、書面開催となっている。	/	◎	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して開催している。現在は新型コロナウイルス感染症対策で書面での報告にしているが、昨年は地域住民や家族にも参加の範囲を広げて、定期的に開催することができている。会議はユニット内で開催しているため、参加者には利用者や事業所内の様子を見てもらえる良い機会としても活用されている。日中働いている家族も多く、参加している家族も固定化している傾向にあるが、参加していない家族にも、会議録など書面で報告をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	外部評価、自己評価の内容等、書面開催の運営推進会議において報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	コロナ禍の書面開催により一方的な報告になっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ禍での書面開催の為、ほとんど行えていない。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	地域包括支援センター等、各所には毎会報告し、いつでも閲覧可能なようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	代表者、管理者、職員が理念を共有し、日々実践できる様に朝礼の際に、事業所理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事業所理念を見えやすいところに掲示し、運営推進会議や行事等、接する機会にお伝えしている。	/	△	○	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	管理者や職員一人一人のケア力を鑑み、外部研修を受けている。コロナ禍では、内部において、毎月の勉強会で職員全体で知識の習得に努めている。	/	/	/	管理者やユニットのリーダーが、職員と個別面談を実施して意見を聞いている。法人の管理者会では、管理者から代表者へ相談することもできている。資格や経験がない状態で入職する職員も多いため、管理者等は働きやすい環境で長く勤めてもらえるよう配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	職員一人一人の課題を抽出し、適宜、指導を行い、個人個人のスキルアップを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	毎月の自己評価で職員の努力目標をあげてもらい、それに対して実行できているか評価している。また、労働時間や職場環境においても、休憩時間の取得簿や休憩室の設置などにより、改善向上させている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	近隣の福祉施設と協力し、管理者職員は、同業者と交流したり、勉強会に参加したりして、意識や知識の向上を図る取り組みを行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	管理者、役職者、職員にストレスや悩み、トラブルがないか、会議や個人面談を行い対応している。又、問題を解決する取り組みや施策を話し合い、実施している。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	入職時の研修や定期的な勉強会、身体的拘束適正化委員会や接遇からも高齢者虐待について学び十分に理解している。	/	/	/	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、内部研修で職員は学ぶ機会があるほか、日々の支援の中で気になる声かけや態度が見られれば、管理者やユニットリーダーが声をかけ、職員に指導するようにしている。また、申し送り時などを活用して、気になることがあれば、職員間で話し合うこともできている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送り時、処遇会等において利用者様の現在状況について話し合い、ケアに反映させる様、努めている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニットリーダーやホーム長に速やかに報告し、職員への指導教育プログラムを実施するよう体制を構築している。また、発生した場合は、職員会等、全体で話し合う機会を設けることになっている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	定期的に管理者、役職者、看護師が職員及び利用者様の心身等を観察し注意を払っており、それを元に、代表者へ報告、連携を行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的な勉強会や身体拘束適正化委員会等で身体拘束について学び、身体拘束適正化についての指針を作成し常時閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に勉強会、研修等において知識の修得に努め、利用者様の状態に応じて、ベッドの位置や車イスの位置等、点検し、処遇会等で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様から拘束や施設への要望が有ったとしても、都度説明し、理解を得られる様に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会や内部研修において、知識の修得に努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族様から相談が寄せられた場合は、居宅介護支援事業所及びケアマネージャー等、専門員と連携し、適切なアドバイスが行えるよう努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センター職員を含む西条市介護支援専門員連絡会に参加して成年後見制度やその他の制度を外部の勉強会として学び、情報交換を行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	研修や勉強会にて教育している。研修の資料をマニュアルとして掲示し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	研修に参加したり、訓練や勉強会でも緊急時の対応に触れ知識と技術を習得している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットともに記録に残し、職員会、事故検討会を通じて情報を共有し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	状況や、状態の変化に伴い、処遇会等で、都度、対応を検討し、実行している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応のマニュアルを作成し、閲覧可能な状態で設置し、職員にも周知、対応についても検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	必要に応じて、速やかに対応している。また、市の担当課にも連絡し、対応策等についてアドバイスを頂ける様にしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	必要に応じ対応し、話し合い、ご家族様等と、良い関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々、利用者様の意見や要望の収集に努め、相談窓口を設置し、運営推進会議等でも機会を設けている。			◎	日々の支援の中で、職員は利用者の意見や要望を聞くよう心がけている。玄関に目安箱を設置してはいるが、面会時に直接家族から話を聞いたり、職員が電話連絡を細目にするなど、要望があれば気軽に話してもらえよう配慮している。職員からの要望については、管理者が取りまとめで代表者に相談することもでき、今年は休憩室にエアコンを設置してもらうことができた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口や意見箱を設置している。また、運営推進会議等で、意見や要望を伝えて頂く機会を設けている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	随時、苦情や相談ができる窓口があり、重要事項説明書にも掲示し、適時情報提供させていただいている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	都度、機会を設け、意見や提案等の吸い上げに努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に職員の意見に耳を傾け、利用者様本位の支援が行えるように前向きに検討している。			◎	

愛媛県グループホーム恵須栄

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義目的を理解し、全員で取り組んでいる。				外部評価のサービスの評価結果は運営推進会議を活用して報告しているほか、家族にも書面で報告できているが、事業所のモニター機能にまでは至っていない。会議の中で、外部評価の結果など家族や地域住民から意見やアドバイスを言いやすいように、具体的な報告や質問の仕方などを工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	事業所の現状や課題について、抽出された課題を、毎月の職員会や役職会で話し合い改善に努めている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	評価結果を踏まえて設定された目標がクリア出来る様に事業所全体に周知し対応している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標達成計画は掲示板に掲示するなどし、評価結果表をいつでも閲覧可能な状態にして備えている。また運営推進会議においても報告している。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	都度、取り組みや進捗状況を運営推進会議等で報告しているが、職員全員への周知が不十分である。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	防災マニュアルを作成し、常に閲覧可能な状態にしている。				定期的に様々な想定をした避難訓練を実施している。訓練には、地域住民や家族の参加を得ることができている。また、隣接する建物に、食料品や水などの備蓄品を準備している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中、夜間等についての時間帯を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	施設設備の点検を定期的に行っている。地域の福祉施設と協力して点検を行い、備蓄、備品の整備も行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同の訓練や話し合いを行っており、協力支援体制の構築に努めている。現在はコロナの影響もあり、外部との合同訓練は、実施できていない。	×	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	消防に避難訓練へ参加して頂いている。近隣の福祉施設や会社と共に災害対策について取り組んでいたが、現在はコロナの影響もあり、実施できていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	行事の参加時等で、地域の人に認知症ケアについての情報を発信している。また、ホームページ等により、グループホームでの生活や行事について発信しており、認知症の方の生活について地域に理解と、親しみを持ってもらえるように努めている。				公民館行事や敬老会等には利用者と一緒に参加しているほか、地域行事の場や利用者と一緒に散歩をしている際に地域住民から相談を受けることもある。今後は、事業所の専門性を地域に還元する機会として、他機関が行っている認知症サポーター養成研修や介護教室等への参画なども検討することを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の人から、介護について相談される場合は、お話を聞き適宜アドバイスができるよう努めている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	行事で事業所に招待し、地域の人に来ていただき交流を図っていたが、コロナ禍では少なくなっている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	近隣施設の介護職員の受け入れを行い、相互の人材育成を推進している。また、共同で外部の専門科を招き、研修を行うなど活動をしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	他施設の行事イベントに参加したり、地域の祭り、敬老会等に参加したりして、地域活動に関われるよう努めている。現在は、コロナの影響により自粛している。			△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871200139
事業所名	グループホーム恵須栄
(ユニット名)	栄ユニット
記入者(管理者)	
氏名	佐伯 恵子
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 28 日

<p>【事業所理念】</p> <p>地域の中で エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所</p> <p>私達は地域の中で一生懸命に生きる姿を真心を込めて支え、地域の中で笑顔の花を咲かせます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①理念に即した利用者様の現状に合わせたケアサービスの提供について、職員会・ユニット会(処遇会)・勉強・役職会・各種委員会活動を通じて職員全体で話し合いを行っている。それにより決まったケア方針を職員が共有・実践できるようにしている。</p> <p>②運営推進会議の議事内容を家族様に郵送し、ご報告している。次回の運営推進会議ご案内を同時にさせて頂き、参加を促している。また、お電話により、家族様に出席をお願いをしている。今年に限っては市の指導により文書での報告が多くなっている。</p> <p>③避難訓練は近隣の会社に勤めている方や福祉施設に勤めている方参加を予定していた。昨今の社会情勢により参加者は減ったが、地域の方が参加し、意見を頂いている。職員の緊急連絡網の実践訓練を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>静かな環境にある事業所周辺には緑が多い。ベテラン職員から若手職員まで、すべての職員は仲の良いチームができており、利用者の穏やかな生活を支援している。系列法人に様々な種類の関連施設があることで、利用者の状態が変化した際にも、スムーズに転居先につなげることができている。また、法人・事業所として災害対応にも取り組むことができ、地域住民や家族の協力を得て避難訓練が実施しているほか、食料などの備蓄品も整備されている。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	現実的には難しい場合もあるが、可能な限り本人様の思いや、こだわりを大切にしている。	○	/	◎	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりと十分に対話する時間を取るよう心がけている。現在は、自分の意思を伝えられる利用者が多いが、難しい場合にはこれまでの利用者の様子や家族等から聞き取った意向を踏まえ、職員は利用者の気持ちを推測して支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人様と家族様との意向の相違がある場合もあるが、本人様の思いを大切にしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族を中心とした近親者が中心とはなるが「本人の思い」は常に念頭に置いてキーパーソンを含め話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメント表の作成段階で、本人の意向ありたいという暮らし方への思いを記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	24時間シートを用いて、日勤・夜勤とも客観的事実に基づいて本人の思いを抽出している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	インテーク面接の段階で生活歴で聞ける範囲までは、お聞きしプライバシーに纏わることは入床後、関係ができてからお聞きするようにしている。特に本人様のこだわりに関しては大切にできている。	/	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、担当していた介護支援専門員等から情報をしっかりと聞き取りをしている。入居後にも、日々の支援の中で、職員は利用者からこれまでの暮らしについて話を聞いたり、面会に来た家族や友人から情報が得られたりすることもあり、アセスメントシートに記載して把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	24時間シート(できる・できないシート)にて1回/月確認して利用者の変化に気づけるよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	24時間シートやケアプランの更新時に作成するアセスメントシートの備考欄に記載している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	認知症の利用者におけるBPSDは職員の関わりによって、如何様にもなることを周知・徹底している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートに各担当者が、気づきや思いを書き加えて、情報共有に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	職員間での日頃の申し送りによって、職員目録ではなく、利用者のニーズはどこにあるのか意見を話し合っている。	/	/	◎	職員一人ひとりが把握した情報は、朝夕の申し送りや月1回の処遇会において、職員間で共有されている。各利用者の担当職員が中心となって情報を把握し、ユニットリーダーがまとめる形で記録を整理している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	利用者の担当者の意見を尊重しつつもそれでも足りない部分はリーダーやサブリーダーが支援方法を補足している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	本人の主訴がどこにあるのか?という原点に立ち返り、そこから本人にとってより良い暮らしとは何かを模索している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	集団生活において逸脱した行為でない限り本人の意向を反映させている。	/	/	/	各利用者の担当職員が主に把握している利用者の情報をもとにして、計画作成担当者が介護計画を作成している。職員は家族にも細目に連絡を取り、意見や要望を聞くようにして、反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人と家族で意向が異なる場合もあるが、その時はケアマネや担当職員、関わりのある人等で客観的事実に基づき、その妥当性を、判断してから双方の意見やアイデアを構築するよう努めている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人の「できること」に着目し、その部分を如何に引き出すかを念頭において、無理なく過ごしていただけるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ケアプランの中にも実際に家族の協力を得てこそ、成しうるものを網羅している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画を理解できていない職員には逐一説明もしくは、申し送り帳や処遇会にて指摘し、共有しあっている。	/	/	◎	毎日のケース記録の様式が、介護計画の目標に沿って記載できるようになっており、職員が計画の内容を意識できるよう工夫されている。また、毎日のケアプランチェック表や介護日誌には、丁寧に支援した具体的な内容が記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプラン評価表にてプラン内容を実践できたかどうかを日勤職員・夜勤職員とに分けて確認し合っている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	介護記録は会話調を多用し、その際の利用者の反応も記録し、介護計画に沿っていても、声のトーンや口調によって様々な反応があることを申し送りで話し合っている	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	職員の気づきや工夫はケース記録に、アイデア等は24時間シートに盛り込んでいる。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	基本的に6ヶ月で見直しを行っているが、利用者状態に変化があった場合はもっと短い期間でも見直しを行っている。	/	/	◎	利用者の状態が変化した際には、その都度見直しを行うほか、大きな変化がない場合でも月1回の処遇会の中でモニタリングを行い、サービスの実施状況や利用者の現状確認をしている。また、介護計画は6か月を目安に、見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に1回の処遇会で現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	認知症の急速な進行やADLの顕著な低下があった場合、本人や家族を交えて、新たなプランを作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件がある場合はまず、役職者で話し合いを行ない、その後、他の職員にもアナウンスしている。	/	/	◎	月1回の処遇会はユニット毎に開催し、主に利用者の詳細な情報共有や検討の場となっている。職員会議は両ユニット合同で開催しており、会社からの伝達事項や入退所など大きな変化があった利用者についての申し送りが行われている。また、議事録がまとめられ、参加できなかった職員にも内容が伝達されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員それぞれが、課題を持って会議には望んでいるが、自由闊達な意見が飛び交うにはさらなるそのような雰囲気づくりの醸成を意識している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	なるべく職員会議で職員が集まる日に開催しているが、それでも、出席できない職員には、事前に会議での検討内容を周知し、記載してもらっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録にて会議内容を残し、1週間ほど掲示板に張り出し目を通してもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	事故報告や家族への連絡事項、利用者の状態、外部からの連絡等優先順位を設けて、情報共有を行っている。	/	/	◎	申し送りノートや日誌には、利用者の変化や外出の予定などが丁寧に記載され、職員間で情報共有できている。重要な事項にはアンダーラインを引いたり、朱枠で囲んだりするなど、分かりやすい工夫もされている。また、記録の閲覧後には、職員が押印する仕組みとなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	パソコンソフト内に全職員が閲覧できる申し送り事項欄が存在しているため、それを利用している。ただ、現状恵ユニットと栄ユニットでは重要な情報に関しての微妙な温度差が存在している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	毎日、利用者様の体調等を考えてレクを行っている。	/	/	/	職員は利用者一人ひとりに丁寧に声をかけ、思いや意向を聞き、選択する機会を設けている。アセスメントで、職員は利用者の好みを把握しているため、興味のあることを中心に声かけをして誘うことができおり、利用者楽しんでもらう機会を提供している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクリエーションではいくつかパターンを用意し、本人様に選んで頂いている。また、衣類なども本人様の自己決定に委ねている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者様とコミュニケーションをとり、拒否などのある時は、間をあげ、支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	24時間シートによって利用者様の生活習慣を把握している。利用者様ごとに、声掛けし、優先順位を考え、その時のタイミングを逃さないように支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員が利用者様と寄り添い、個別にお話をし、楽しめるように努めている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	毎日の行動やしぐさを観察し、職員間で、共有し話し合っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会や外部研修で「人権」や「尊厳」を学び、プライバシー等の勉強をしている。居室やトイレなどでは特にプライバシーの大切さを意識して対応している。	/	◎	○	日頃から職員の言葉がけには、ユニットリーダーが留意しており、職員に向けた貼り紙をして注意喚起を促している。居室への出入りやトイレ、入浴時など、利用者のプライバシーに配慮した支援ができるよう、特に新人職員には力を入れて指導している。また、訪問調査日には、難聴の利用者に耳元で職員が声をかけてトイレへ誘導するなど、できる限り配慮している様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレの声掛け等は、1人1人言葉を変え、さりげなく丁寧な言葉かけを心がけている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や更衣時はドアを開めたりカーテンを下げ、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	職員が、居室に入るときは、ノックをしたり、本人様の許可を得てから入るようにしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員はプライバシーの保護や個人情報についての教育は受けており、理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様とコミュニケーションの中で昔の事を教えて頂いたり、洗濯物を畳んで頂いたり、食器拭きの手伝いをして頂いた時には、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の相性や関係性について把握している。雰囲気が険悪になった場合など、職員が利用者の間に入って場所や話題を変えるなど、大きなトラブルにならないように対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が仲良く助け合って、協力し合えるように側面的な援助を心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員は、利用者様同士が、楽しめるように話の中に入ったり、孤立しないように席替えをしつつ、支援に努めている。利用者様ごとの性格特性を掴み相互作用が機能するよう働きかけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者様同士のトラブルは、両者の話を聞き、席替えをしたり、レクリエーション等で仲直りをして頂く。	/	/	/	

愛媛県グループホーム恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	アセスメントや家族様とコミュニケーションより把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様とお話する中で聞いたり、家族様からお聞きしたりしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	新型コロナ感染が広まってからは、気軽に知人や友人に会ったり、馴染みの場所に出かけていくのが難しくなっているが、新しい生活様式に則って関係性が途切れないよう努めている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	新しい生活様式の範囲内で本人の馴染みの人達が来て頂けるよう、環境整備を行っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	戸外に出て、気温や天候によっては、利用者様の意思を再優先し、散歩をしたり気分転換を図って頂く。	○	×	○	利用者の状態に関わらず、毎日各ユニット一人ずつ順番に散歩に出かけている。午後のお天気の良いタイミングを見計らい、利用者と職員が1対1で出かけるため、じっくりと対話できる良い機会となっている。その他の外出として、ドライブで藤の花を見に行ったり、景色を眺めを楽しんだりすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の人達と一緒に夏祭りや秋祭りなどに参加していたが今年度は、新型コロナ感染により中止している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	気分転換に屋外に出て、日光浴をして、楽しんで頂いている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	例年はドライブに出かけ、季節の花等を見て頂くのだが、今年は、新型コロナ感染がある為中止となっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	定期的に、勉強会を行い、利用者様の情報を話し合い、ケアにあたっている。				「24時間シート」を活用して、利用者一人ひとりのできることやできそうなことについて細かく整理され、職員間で共有できている。訪問調査日には、時間がかかっても利用者自身が車いすを自走したり、歩行器を使用して自分で自由に移動したりする様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ラジオ体操や、口腔体操以外にも、個々にも歩いたり、下肢訓練等機能維持、向上を図っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	本人ができる洗濯物たたみ、食器拭き、衣類の片付けは、自分でしてもらっている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者様の個々に出来る事で、食器拭き、お盆拭き、洗濯物たたみをしていただいている。				職員は、利用者それぞれ得意な作業をお願いしており、洗濯物たたみや季節の飾りつけの折り紙などをしている。全ての利用者が役割を持てるよう、職員は、新聞紙のごみ入れ作りや張り紙の作成など、利用者のできそうな作業を見つけることを意識している。事業所の近くには畑があり、利用者と一緒に季節の野菜を育て、収穫を楽しんでいる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	職員と一緒に行事等で使う物を作っている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	文化祭に参加したり、ボランティアとの交流をしていたが、コロナ感染が広がりは、中止している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	家族に協力してもらい季節感のある服を着ておしゃれを楽しんでいただいている。				利用者の状態に関わらず、2か月に1回の訪問理美容サービスを活用して、髪型などの整容を整えている。トイレから出てきた際に衣類が乱れていることが多く見られ、職員がさりげなく声をかけながらそっと手直しをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人様の意思を尊重して、援助が必要な場合は、適切な支援を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けやいくつかの選択肢を提示し、それでも判断できない場合はお似合いの服を着て頂いている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節感や気温に合った服装が着られるように支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	気になる汚れなどはその都度直している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	約2ヶ月に1回は、理容師にホームへ出張してもらい髪を切ってもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	朝の整容で整えて乱れがあるときはすぐに整え直している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修や職員の話し合を通じて食事の大切さを理解し合っている。				毎日の惣菜は、業者から調理済みの物が配達されるため、温め直して配膳している。炊飯と味噌汁、スープなどの汁物は事業所内で職員が調理している。日々の食事の際には、利用者と一緒にメニューを考えたり、調理したりする機会が持てないため、行事食やおやつ作りなどを活用し、職員はできるだけ利用者も参加できる場が設けられるよう心がけている。業者側で栄養バランスの取れたメニューがあらかじめ設定されているが、利用者の好みやアレルギー等には個別に対応してもらっている。食器類については、事業所が準備したものを使用しているが、入居時に「使い慣れたものを持参したい」という希望があれば、使用することも可能である。普段の食事では、職員は食事の介助や見守りを優先させるため、利用者と一緒に食べることはできていない。利用者と同じ食卓を囲んで楽しく食事をすることについて、職員間で検討する機会を持つことを望みたい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	後片付け等、出来る利用者さんには一緒にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者さんには食後の跡片付けや食器拭きを一緒にやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	インテーク面接段階である程度は把握している。を各職員へ入所前から利用者様の嗜好を周知している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	季節に合った、春にはお花見弁当、秋には芋炊き、手作りおやつなどを取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	握力の弱い人には軽い食器を使うなどの配慮はしているが、極力刻みやミキサー食は使用しないように指導徹底している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個々に持参されたものやなじみのものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食事の様子を見ながら、必要に応じて一人一人に合った対応を行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理場とホールが隣り合わせなので、匂いも体感でき、食事が待ち遠しくなる雰囲気づくりや盛り合わせに配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	給食会議にて意見や感想、情報交換に努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取の少ない利用者には、家族に協力してもらい、ジュース、ポカリ、ウイダーインゼリーなどを持参してもらい、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養スクリーニングを行っており、介護支援専門員が栄養士からの指導を受け、プランに反映している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は適温に管理して、調理から提供するまでの時間を決めている。食後は必ずシンクやふきんをハイター消毒している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修や、職員の介護職員の研修発表など、勉強を行っている。				毎食後に、利用者は歯磨きをしている。義歯を外す際には職員が付き添うため、その時に口腔内の状態を確認している。違和感や痛みの訴え、出血、腫れなどが見られた場合には、歯科受診につなげている。また、職員は定期的に口腔ケアの研修を受講し、日々の支援に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後は口腔ケアにチェックを行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的に、歯科受診に行かれる利用者もおられる。また、定期的な口腔ケアの勉強会や歯科医師からの勉強会も参加している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日口腔ケアをしており、夜間は義歯洗浄剤につけている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアを行い見守りに努めている。義歯洗浄等自力でできる方も確認している。介助の方はその都度チェックしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	インプラントや、歯周病のある利用者様は歯科医への受診を行うようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	ぎりぎりまで本人様が本来使われていたパンツや衣類を使用してもらい、紙パンツに移行する際には十分に本人様との話し合いを行っている。				トイレでの排泄を基本としているが、入居前にポータブルトイレを使用していた利用者もあり、利用者や家族の希望があれば、夜間のみ継続して使用してもらうこともある。布パンツの利用者も数名おり、パッドを使用し始めるタイミングや声かけの仕方、紙パンツへの移行など、一人ひとりの状態に合わせて、家族にも相談しながら支援している。また、排泄用品の適切な使用や状態に応じた誘導など、日々の申し送りや処遇会で検討して共有している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会などで知識についての理解をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録により、利用者様のパターンの把握を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個人に合わせたトイレ誘導を3時間を目安に適切に行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給やトイレでの排泄の拒否の原因を探り処遇会等で検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄表を作り早目のトイレ誘導の声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者様の意思や家族様の意見を確認して職員間で検討し日中と夜間帯によってパットの種類を分けている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中夜間を使い分けをして利用者様の状態が維持できるように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	飲みやすく配慮しバリエーションを増した水分補給方法、歩行練習などの呼びかけ。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	週2回の入浴を実施。入浴の長さ、好みの温度など利用者様の希望に沿って行っている。	◎		○	週2回を目安に、利用者は順番に入浴している。午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調により、入浴日や時間を変えることもある。入浴を億劫がる利用者もいるが、対応する職員を代えたり、声かけのタイミングを変えたりする工夫をしながら、利用者にも無理強いをしないよう配慮した入浴ができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	アセスメントで拾い上げた情報をもとに、声掛けを行い湯船に入る時間等を考慮している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人様が出来ることはして頂き、出来ない所は支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	声掛けは工夫したり職員を替えたり時間をずらして工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル測定を行い、利用者様の身体状況をしっかりと見極め入浴して頂く。状態によっては、入浴後もバイタル測定をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者の記録や朝礼の申し送りによって情報の共有に努め職員全員が把握している。	/	/	/	できるだけ薬に頼らなくても済むよう、職員は利用者の日中の過ごし方などを気を付け、安眠できるよう努めている。現在、眠剤等処方されている利用者が数名いる。職員は利用者の翌朝の状態などを細かく観察して主治医に報告しており、処方薬の減薬や服薬の必要がなくなった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中に体操や運動を取り入れレクに参加して頂き、夜間良眠していただけるよう生活のリズムを整えている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤や安定剤の使用は医師、病院の指示に従い服用してもらい、変化があった時は看護師、医師に相談して連携を取っている。BPSDは薬物療法が第一選択肢ではないという事も処遇会で話し合っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後は居室にてベッドに休んで頂いていただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	必要に応じて家族様への連絡を行えるように配慮している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	いつも必要な限り対応していますが現状、利用者様からの訴えは見られない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	必要に応じて対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	年賀状を利用者様にお渡しし、返事の確認対応を行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要にも応じて家族様にも対応して頂くようお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	認知症利用にとって大切さについては理解できている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族様には必要に応じて協力して買い、外出・外泊の時に買い物に行って頂くようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	現在は社会情勢的に難しいが、家族様に一緒に協力し合って買い物に行って頂けるようにしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族さまと話し合い所持金や管理について納得して頂けるよう話し合いを十分行っている。また、お金の所持や管理については家族様に協力して頂くようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と話し合い納得して頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	利用者が金銭の管理ができないにもかかわらず、金銭に固執する場合は本人や家族の許可を得て預かり台帳を作成している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者様の気に入った服、使い慣れたベッドなど持ってこられ住み慣れた環境作りをしている。	/	◎	◎	「自宅でガーデニングを楽しんでいた」ということを家族から聞き、事業所ではプランターを準備して、職員と一緒に花を植えて毎日の水やりを日課としている利用者もいる。可能な範囲で、管理者は「利用者や家族の希望に柔軟に対応したい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にはユニット名を貼っている。丁寧に掃除も行っている。	○	○	○	玄関前にベンチが置かれているため、そこで利用者と一緒に花を眺めて過ごすこともある。玄関は出入りを自由にすることができる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に応じた壁面づくりをして季節感を感じてもらっている。ホールにはソファを置き、ゆったりとくつろげるようにしている。	○	○	○	リビングに季節の果物を置いたり、利用者と一緒に作成した切り絵や折り紙などを飾り、利用者や来訪者に季節を感じられるよう配慮している。毎日、職員が丁寧に掃除しているほか、新型コロナウイルス等の感染症対策のため、1日に2回消毒作業も行い、清潔が保たれている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	時間ごとに換気を行い気持ちの良い空気を吸って頂けるよう心掛けている。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	花を生けたり、季節感のある壁画づくりを利用者様と一緒に手伝ってもらっている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	オファーや畳の椅子でもくつろげるよう空間づくりに努めている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレにはカーテン浴室にはプライバシーが守れるようになっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人様の気に入られた服を持ってこられたり、本人様の愛着のある家具などを居心地よく配置する。	◎	/	/	自宅で使用していたベッドを持参している利用者も数名いる。居室には、いすや収納棚など、使い慣れた家具を配置したり、家族の写真を飾ったりすることにより、居心地の良い空間づくりを心がけている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレが一目でわかるように表示したり、利用者様が分かりやすくしている。また、最近になって、できないシート(24時間シート)安全で自立した生活ができるよう、スタッフ間で話し合っている。	/	/	◎	トイレや浴室の入口に大きく表示をしているほか、居室の引き出しには、くつしたやタオルなどの表記があり、利用者が自分で取り出し選択できるよう配慮されている。居室の入口には名前のプレートを貼ったり、目印となるものを飾ったりするなど、利用者に合わせて分かりやすく、迷わないような工夫もしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険と思われるものを使われる時は職員が見守り、出来るよう目の届く範囲で行ってもらっている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞雑誌などは手に取れるところにさりげなく配置し、裁縫道具や急須等は職員が見守りできる場所に置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	勉強会等により、身体拘束の勉強会に取り組んでいる。施錠のない空間作りを心掛けている。	◎	○	◎	日中玄関は施錠しておらず、利用者は自由に出入りすることができる。外へ出ようとしている利用者がある場合には、職員が付き添って玄関のベンチでおしゃべりをして過ごしてもらっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様には、入居時に説明をしている。身体拘束適正委員会において作成しており指針を閲覧出来る様になっている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者様の外出の察知出来る様に心掛けている。(上着を着たり、帽子をかぶる。)職員間で連携を図る。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	面接時に、既往歴や現病名を把握し、その後のアセスメント表に各自記載する欄を設けている為、把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日定時のバイタルチェックと医療関係者からの指示による1日数回のバイタルチェックを行っている。記録をパソコンに入力し、血圧・食事・排泄等の数値を記入し、身体状態の変化や異常が発見できるように、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常があれば、早期に医療機関、主治医に受診していただいている。往診にこられている医療機関は夜間の緊急時でも指示を仰げる体制は整っている。また、家族やコメディカルの協力のもと重症化を防ぎ必要ならば入院へと繋げている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	利用者のこれまでの受療状況を把握し、本人や家族が希望される医療機関へと受診してもらっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用者や家族の意向のもとかかりつけ医へ受診して頂いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は原則、家族に行ってもらっている。遠方に家族がいる方や止むを得ない事情のある方には介護タクシーを利用してもらっている。受診結果の共有は受診状況報告書を用いて行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	利用者のホームでの状況はサマリーにて情報提供している(要介護度・ADL・服薬状況・精神・身体状況・最終排便日最終入浴日等)				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時の状況・退院飲み込みを、当該病院医師やコメディカルと退院前カンファレンスを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診時、往診時に利用者の日常の状態や体調の変化をこまめに報告し、助言をいただくなどの協力体制を構築している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師には日頃の生活から得た情報や身体状況、精神状況の変化をユニット間の相違なく逐一報告している。、医療に纏わる相談や、介護員では禁じられている医療行為も行ってもらう。それでも解決しない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコールマニュアルによってその体制は整備されている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	介護職からリーダー及びサブリーダーに報告があり、管理者のもと看護師へと適切な指示が出されており、早期発見治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	アセスメント表に薬の目的や用量などは記載している。副作用に関しては薬事情報をファイルに綴じ閲覧できる。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬剤師や看護師の協力を受け二重三重のチェック行ない、誤薬を予防している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	認知症の周辺症状の改善には第一選択肢で服薬によるものではないことを知ったうえで、食欲の低下や、便秘などには細心の注意を払って観察をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬調整が上手くいかなかったときや、疑問に思ったことは、すぐに主治医や看護師に相談している。				

愛媛県グループホーム恵須栄

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合も考慮して特別養護老人ホームへの入所に対する家族の意向や疾病により、病院へ長期の入院が余儀なくされた場合の話もさせていた。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り及び重度化した場合における対応にかかる指針」を作成しているが、これまでに事業所での看取りは行っていない。入居時に、利用者や家族には事業所として可能な支援の限界を丁寧に説明し、実際に重度化が進行した際にも家族等と話し合いの機会を持つようにしている。系列法人に特別養護老人ホーム等があり、そういった施設での受け入れ体制の支援についても説明し、慎重な引継ぎを行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取り及び重度化した場合における対応に係る指針を入居時または状態変化の段階ごとに説明させていた。	x	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	管理者は現状の職員の力量ではできていることが限られていることは把握しつつも職員のスキルアップを期待している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	契約段階で事業所においてできること、できないことをお伝えし、グループホームでの共同生活が困難になった方には、特別養護老人ホーム等の入所支援している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	当ホームでは終末期にあるご利用者に対し、看取りに関する指針をご家族に説明し、同意を得た場合に看取りを行うこととする。また食事摂取量を一つの指針とし、看取りの一連の過程を分類し整理している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	身体的精神的ケアに努め、痛みや苦痛の緩和を住み慣れたホームで可能な限り受けられるよう心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症マニュアルを参考にし、内部研修・家具研修等で、学習し実践できるようにしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策マニュアルを参考にし、予防のために温度・湿度の管理、トイレ手すりテーブル等を毎日回数消毒を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	行政からの通知やインターネットの関連HP上から最新情報入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	今年は新型コロナウイルスの流行もあり、県のホームページより常に7感染症発生状況を把握している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	今年度に関しては新型コロナウイルスの件もあり「新しい生活様式」を遵守している。また、不要不急の面会も控えていただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	情報を共有し、本人様を支えられる関係を築いている。	/	/	/	夏祭りや芋炊きなど、行事の際には家族にも参加してもらっている。年6回発行している便利には、利用者の写真も多く掲載されているほか、職員の異動などがあれば紹介をしている。面会時には、職員が丁寧に日頃の様子を伝えているほか、何か要望があれば聞き取るようにしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、面会制限が設けられていることもあり、郵便や電話での交流が中心となっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新型コロナの影響の為気軽に来られないが、来られた時は掃除や挨拶を丁寧にやって良い雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナの影響の為、例年ほどの機会が作れていない。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	日頃から家族様に本人様の様子を電話や文章にて、近況報告を行っている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	日頃の連絡や運営推進会議を通じて、忌憚のない意見を出し合い家族様の不安に把握と報告に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面接段階から現在まで本人様と家族様の関係を把握し情報を共有しより良い関係につなげている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ホームページで行事予定を掲載し運営推進会議や書面で理解や協力を得ている。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や運営推進会議の場で交流を図って頂いていたが、新型コロナの影響により機会が減っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	病気などの心身の状態を報告し、起こりうるリスクを家族様と話し合い対応している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	電話連絡のおり、家族様の意見を伺うようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所前より詳細な説明を行い、納得して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	本人様の状態を考慮し、事前に退去についての説明を行い適した環境で過ごして頂ける施設を提案している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に口頭及び書面にて内容を説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から交流を図り、事業所の理解を得ている。	/	◎	/	毎日、利用者は職員と順番で散歩に出かけているため、近隣住民に出会った時には挨拶をしたり、少しおしゃべりをしたりすることもある。芋炊きなどの行事の際には、地域住民にも参加してもらっている。現在はコロナ禍のため、地域との交流する機会は減っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	出勤時や散歩時にあいさつを行っているが、コロナの影響により行事での交流が出来なくなった。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	常に挨拶を心掛け、地域の人と交流を図っている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	新しい生活様式となっておりこれまでの前例があてはまらなくなっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩などの外出時には挨拶を行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	例年は行事を利用してボランティアの方に催しものをして頂いていたが、コロナの影響により自粛している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	市の相談役が徹的に来られ、気軽に相談しながら安全で豊かな暮らしになるように取り組んでいる。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	ほぼ隔月で散髪を依頼して地域との関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	新型コロナの影響のため、文章にて報告を行っている。	/	◎	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して開催している。現在は新型コロナウイルス感染症対策で書面での報告にしているが、昨年は地域住民や家族にも参加の範囲を広げて、定期的に開催することができている。会議はユニット内で開催しているため、参加者には利用者や事業所内の様子を見てもらえる良い機会としても活用されている。日中働いている家族も多く、参加している家族も固定化している傾向にあるが、参加していない家族にも、会議録など書面で報告をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価をはじめとした取り組み状況を報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	コロナの影響により文章での報告になっているが、意見書を同封している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナの影響により対面ではなく、文章にて行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	地域包括支援センターに公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所名の「エスエイ」を頭文字にした事業所理念をわかりやすいところに掲示し、常に職員間で共通認識を育てよう朝の朝礼で復唱して事業所理念を再確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ここ最近では2階の入口からは出入りされることはないが、入口から見やすい所に、掲示しどの方にも伝わるように努めている	/	△	○	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内での研修、関連施設内での研修、完全な外部研修のいずれにも職員の力量や特性および基礎資格に応じて参加してもらっている。	/	/	/	管理者やユニットのリーダーが、職員と個別面談を実施して意見を聞いている。法人の管理者会では、管理者から代表者へ相談することもできている。資格や経験がない状態で入職する職員も多いため、管理者等は働きやすい環境で長く勤めてもらえるよう配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	管理者は、各ユニットに数名OJTを実践する職員を配置しており、勤務の関係上、それが行えない時は、自らが率先して現場に入り、実践している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	今年度から人事考課を刷新し、職員の個性を重視した際なく細分化された評価ができるよう工夫している。また、どの職員も定時で帰れるよう労働時間や職場環境の改善を図っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	近隣の福祉施設と行事やイベントにおいて協力したり、初任者や次席者研修にも関連施設の協力を仰ぎ、積極的に行っている。介護支援専門員には西条市の連絡会にも積極的に参加し、意識を高めるよう促している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	管理者は、職員にストレスや悩みがないか？個人面接を行ない、解決するためのアドバイスをしたり傾聴を十分行っている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体拘束適正化委員会を3月・6月・9月の職員会の後に実施しており、他の職員とともに学んでいる。	/	/	/	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、内部研修で職員は学ぶ機会があるほか、日々の支援の中で気になる声かけや態度が見られれば、管理者やユニットリーダーが声をかけ、職員に指導するようにしている。また、申し送り時などを活用して、気になることがあれば、職員間で話し合うこともできている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	接遇面が疎かになることこそがと高齢者虐待の入口であることを職員とともに日々のケアや、声掛けについて振り返って話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニットリーダーやサブリーダー、ホーム長にさいないことでも速やかに連絡をし、そのような行為が見られた職員には、指導教育プログラムを、実施する体制作りを構築している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	遅刻が増えたり、ふさぎこみがちな職員には、何か悩みやトラブルがないか、自らが聞くだけではなく、関係性の深い職員や役職者まで幅広くアンテナ網を張って対処している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束や虐待にあたらぬか、日々、申し送りを受ける際に、疑問を持ち実際に確認も行っている。普段の会話の中でも、その是非を問っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束適正化委員や日頃の接遇、言動などでおかしいと思ったことには、後からではなくその都度、疑問を呈している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	実際家族から「身体拘束をしても構わない」という意見も頂戴するが、利用者の心理状態やBPSDにも悪影響を及ぼすことを説明させてもらっている。玄関施設に関しても、十分に議論を重ねた上でやっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見制度などは、どうしても申し立てに時間がかかったり、すぐに成年後見人が選出されるわけではないというデメリットも理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	初めての家族との面会や本人様とインテーク面接時にはパンフレットでの情報提供のみならず、具体的な費用がどれくらいかかるかを説明させてもらっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターのスタッフを含む西条市介護支援専門員連絡会に参加して成年後見制度やその他社会資源の利用の仕方を学ばせてもらっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	内部研修や外部研修にて実践的に学んでいる。簡単なマニュアルも作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	内部研修や外部研修に参加したり、看護師が中心になっての実践的な勉強会も行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	安全環境委員会が中心となり、事故やヒヤリハットの取りまとめを行い職員会で発表をしている。、それらを精査し、再発防止のための検証を十分に行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	菜ユニットに関してはほぼリスクマネジメントに関しては煮詰まっているが、実践として機能するまでには至っていない。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成し、職員に周知している。対応についても検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要に応じて速やかに対応している。また市の担当課にも連絡し対応策等についても、アドバイスをいただけるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	必要に応じ対応しよい関係作りに努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々利用者様の意見や要望の収集に努め相談窓口を設置し、運営推進会議等でも機会を設けている。			◎	日々の支援の中で、職員は利用者の意見や要望を聞くよう心がけている。玄関に目安箱を設置してはいるが、面会時に直接家族から話を聞いたり、職員が電話連絡を細目にするなど、要望があれば気軽に話してもらえよう配慮している。職員からの要望については、管理者が取りまとめで代表者に相談することもでき、今年には休憩室にエアコンを設置してもらうことができた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口を設置し、運営推進会議等で意見や要望を伝えてもらう機会を設けている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	随時苦情や相談ができる窓口があり、重要事項説明書にも記載し、適宜情報提供をさせていただいている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	1日に何度も恵ニツ菜ユニットともに足を運び、職員や利用者から意見を聴取している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に職員の意見に耳を傾け、利用者本位の支援が行えるよう前向きに検討している。			◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価が良い目的を理解し、周知はしているが社会情勢上困難なものも目立ってきている。	/	/	/	外部評価のサービスの評価結果は運営推進会議を活用して報告しているほか、家族にも書面で報告できているが、事業所のモニター機能にまでは至っていない。会議の中で、外部評価の結果など家族や地域住民から意見やアドバイスを言いやすいように、具体的な報告や質問の仕方などを工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の現状や課題について毎月の職員会や話し合い改善に努めている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	報告や周知の仕方が不十分であり、評価への関心と理解が得られるまでには至っていない。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	目標達成計画掲示板に貼り付けており、評価結果表を、いつでも閲覧可能な状態ではある。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	①と②は取り組めており、特に②は積極的に利用者様の作品群を提示してもらえよう働きかけている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	汎用性の高いマニュアルと、ユニット独自の独自のマニュアルを作成している	/	/	/	定期的に様々な想定をした避難訓練を実施している。訓練には、地域住民や家族の参加を得ることができている。また、隣接する建物に、食料品や水などの備蓄品を準備している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間帯ともに想定された訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	地域の福祉施設等と協力し、施設設備の点検を定期的に行ない備蓄品の整備を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣のその他の事業所と協力を話し合い行ったり協力支援体制を模索している	x	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防や地域の福祉施設、地域の会社には参加していただいており、アドバイス等もいただいている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	インターネットのホームページ上でホームの近況報告など十分な広報活動ができている。今後はさらなる啓蒙活動を盛んにしていきたい。	/	/	/	公民館行事や敬老会等には利用者と一緒に参加しているほか、地域行事の場や利用者と一緒に散歩をしている際に地域住民から相談を受けることもある。今後は、事業所の専門性を地域に還元する機会として、他機関が行っている認知症サポーター養成研修や介護教室等への参画なども検討することを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	時期的に今行う事は賢明でないと考える。	/	x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	上と同じく将来的なプランは温めてはいるが、現状を行うことは、困難に思われる。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	外国人技能実習生の受け入れを積極的に行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	現在の新型コロナ禍のなかでリスクが少なく、可能と考えられるものには参加している。	/	/	△	